

## 令和5年度事業報告

### 1. 推進部会活動報告

#### (1) 環境共生まちづくり事例の分析・整理《継続》

環境共生住宅の一層の普及促進を目的とし、「環境共生住宅 早わかり設計ガイド/戸建住宅編・集合住宅編」で取扱いのない『環境共生まちづくり・団地』について、様々な機会における情報発信のためのコンテンツ充実化を図ることを目的に、令和4年度に引き続き会員からの情報提供などにより事例情報を収集した。

また、特徴や採用されている様々な取り組み内容（要素・技術等）を分析・整理し、広報部会と連携しながらkkjサイトへこれら情報をアップした。

また昨年度に引き続き、実際に導入された対策内容、現在の環境の状況、計画時から現在に至るまでの各種課題などを把握するために、竣工後ある程度の期間が経過した「環境共生団地・まちづくり事例」を対象に、現地視察や計画者へのヒアリング調査を行った。

#### 【実施内容】

- ①令和5年度も引き続き、竣工後ある程度の期間が経過した特徴的な「環境共生団地・まちづくり事例」の現地視察&ヒアリング調査を実施した。本年度は、「みんなの未来区 BONJONO」並びに「ガーデンシティ舞多聞」の2事例を調査した。
- ②これら事例調査内容を「事例シート」として取りまとめるとともに、調査内容の総合的な整理・分析を行った。具体的には、まず、環境共生住宅の3つのテーマ別にまちづくり手法・対策の特徴を整理するとともに、収集した事例情報を竣工時期や団地形態（戸建団地、集合住宅団地、戸建・集合団地）、地域区分などから特徴分析を行った（詳細は添付する参考資料を参照）。
- ③これら「事例シート」や「環境共生まちづくりの手法・特徴分析」を、令和3年度に立ち上げたkkjサイト内のコンテンツ「環境共生まちづくり事例データベース」内にアップした。

#### 【総括】

- ・令和3、4年度に引き続き本年度も2事例の調査を実施した。これにより現地調査は計8事例となり、現地調査並びにヒアリングを通じなければ得られない貴重な情報（特に竣工後現在までの実態など）が得られた。次年度も引き続き現地調査並びにヒアリング調査を継続して行く予定である。
- ・その調査内容を「事例シート」として取りまとめるとともに、これまで行った現地調査&ヒアリング調査から得られた知見を整理分析し、部会メンバーはもちろんkkj会員に対し広く情報共有していく予定である。

表1 「環境共生団地・まちづくり事例」の現地調査&ヒアリング調査の実施結果

回	事例名称	場所	実施日	実施方法
1	エムスマートシティ熊谷	埼玉県熊谷市	令和4年1月18日	現地調査+WEB配信
2	Fujisawa サステナブル・スマートタウン	神奈川県藤沢市	令和4年6月16日 令和4年7月7日	見学ツアーに参加し2回に分けて実施
3	台の森プロジェクト	宮城県仙台市	令和4年7月14日	現地調査+WEB配信
4	黒部パッシブタウン	富山県黒部市	令和4年9月13日	現地調査+WEB配信
5	SMA×ECO TOWN 晴海台	大阪府堺市	令和4年11月15日	現地調査+WEB配信
6	オガール日詰二十一区 [紫波町エコタウン]	岩手県紫波町	令和5年1月17日	現地調査(事務局のみ)
7	<b>みんなの未来区 BONJONO</b>	<b>福岡県北九州市</b>	<b>令和5年9月12日</b>	<b>現地調査(希望者)</b>
8	<b>ガーデンシティ舞多聞</b>	<b>兵庫県神戸市</b>	<b>令和5年11月14日</b>	<b>現地調査(希望者)</b>

(2) 環境共生住宅事例データベースの拡充《継続》

昨年度に引き続いて、環境共生住宅への理解・普及を目的に、環境共生住宅事例データベースの拡充を図った。掲載要件に基づき、会員企業等が取り組む新築及び改修事例を収集し、データベースに追加しホームページを通じて情報発信した。

【実施内容】

①新規2事例を掲載した。

- ・会員企業から情報提供された次の2事例について、令和6年3月末にkkjサイトへ情報を掲載。

表2 環境共生住宅事例データベースの新規事例

建物名称	所在地	施工年	事業者名
アルビオ・ガーデン 南郷通	北海道札幌市	2023年	ミサワホーム株式会社
マーク新さっぽろ (新さっぽろ駅周辺地区I街区 開発プロジェクト)	北海道札幌市	2023年	大成建設株式会社

【総括】

- ・会員企業の協力及びkkj活動を通じて、地域性に配慮した特徴的かつ先導的な新築事例を収集し、情報発信することができた。

### (3) 「環境共生住宅」を考える今日的視点に関する情報収集《新規》

住宅・まちづくりに対するニーズや価値観などが多様化している今日の状況を背景に、「環境共生住宅」の魅力をさらに高めていくための新たな視点を探ることを目的に、今日的視点に関するいくつかのテーマを定め、各テーマに関係するゲストを招いてプレゼンテーション＋自由討議を行う「環境共生住宅の新しい魅力を考える勉強会」を開催した。

#### 【実施内容】

- ①本年度は令和6年1月18日（木）に、「環境共生住宅」×「二地域居住、田舎暮らし」をテーマに試行的に開催した。
- ②開催概要は次の通り。
  - ・勉強会名称：「環境共生住宅の新しい魅力を考える勉強会」
  - ・テーマ：「環境共生住宅」×「二地域居住、田舎暮らし」
  - ・プレゼンター：小林 光氏（東京大学先端科学技術センター研究顧問）  
徳吉英一郎氏（農業法人 株式会社ノース）
  - ・主催：一般社団法人 環境共生住宅推進協議会
  - ・開催日時：令和6年1月18日（木） 15:00～17:30
  - ・開催場所：一般財団法人建築行政情報センター（ICBA）会議室
  - ・対象：環境共生住宅推進協議会会員
  - ・参加者：現地参加 37名、WEB参加 16名（計 53名）
- ③第1回勉強会の開催状況（プレゼンテーション動画）を協議会ホームページにアップした。

#### 【総括】

- ・予定参加人数を確保でき、活発な質疑応答が行われた。アンケート回答者（計12名）の全員が勉強会の内容について「とても参考になった」「参考になった」を回答しており、開催意義はあったと考えられる。
- ・今後の勉強会に期待するテーマについては多岐にわたっており（「ウェルネス・ビーイング」「少子高齢化」「地域防災」「空き家対策」「DX・AI」「複合用途開発」など）、次年度以降も計画的に開催を継続していく予定である。

## 2. 調査研究部会活動報告

### (1) 環境共生住宅推奨部品を組込んだ「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」の検討及び作成《継続》

「お勧め建材ガイド」及び「お勧め設備ガイド」の5地域編、6地域編、7地域編の公開データを作成した。6地域編、7地域編は令和5年12月25日に、5地域編は令和6年3月29日にそれぞれ建材ガイドと設備ガイドをセットで公開した。

#### 【実施内容】

- ①品確法断熱等性能等級の上位等級創設を受け、レベル設定を対応させた。
- ②建材ガイドのレベル3段階と設備ガイドのグレード2段階の組合せと、省エネ基準、誘導基準、ZEH等の関係を整理し、「kkjのお勧め」の水準を提示した。
- ③建材ガイドのレベル3については「開口部強化型」「躯体強化型」とした。「開口部強化型」は充填断熱工法及び外張断熱工法の単独の工法とし、「躯体強化型」については付加断熱工法とした。
- ④設備ガイドでは外皮性能の変更に伴い一次エネルギー消費量の再計算を行った。

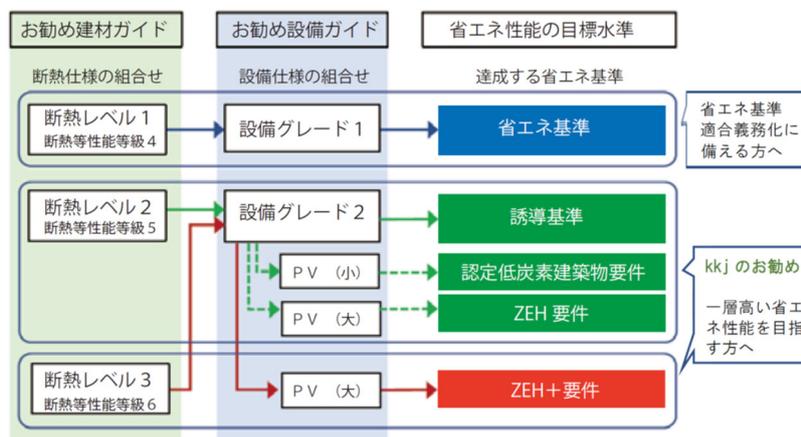


図1 お勧めガイドの断熱レベル・設備グレードの組合せと省エネ性能の目標水準

#### 【総括】

- ・「お勧め建材ガイド」については、最近の品確法等の改正内容を踏まえて検討を重ね、5地域編の最新版、6地域編、7地域編の改訂版を作成した。
- ・「お勧め設備ガイド」については、5地域編、7地域編を新たに作成し、6地域編は改訂版として作成した。
- ・温暖地である5～7地域について両ガイドを整え、省エネ性能の目標水準に応じた断熱レベルと設備グレードの組合せを検討できる資料としてセットで公開した。

表1 お勧めガイド発行状況と今後の予定

地域	お勧め建材ガイド		お勧め設備ガイド	
	既版発行	改訂版発行	既版発行	改訂版発行
1	2020.06	2024年度予定	—	2024年度予定
2		2024年度予定	—	2024年度予定
3	2019.06	2025年度予定	—	2025年度予定
4	2017.11	2025年度予定	—	2025年度予定
5	2018.03	2023年12月公開済	—	2023年12月公開済
6	2022.03	2023年12月公開済	2022.03	2023年12月公開済
7	2022.03	2024年3月公開済	—	2024年3月公開済

## (2) 環境共生住宅推奨部品データベースの運営・管理《継続》

推奨部品の登録及び利用の拡大を目指し、昨年度、「環境性能等の強化・拡充項目」に新たに設けた推奨基準項目「XI レジリエンスの向上」について、該当する推奨部品を検討し、推奨基準等についても合わせて検討を行った。

また、推奨部品の新規登録及び登録更新作業を実施した。

### 【実施内容】

- ①「XI レジリエンスの向上」に該当する部品として、新たに「太陽熱利用システム」、「太陽光発電システム」、「家庭用ガスコージェネレーションシステム」を対象として検討を行い、「XI レジリエンスの向上」に関する推奨基準等を追加した。
- ②「太陽熱利用システム」、「太陽光発電システム」、「家庭用ガスコージェネレーションシステム」における推奨基準等の追加に伴い、環境共生住宅推奨部品の「概要と推奨基準の考え方」を修正するとともに、部品紹介の記載内容等についてホームページの更新を行った。また、合わせて登録申請に関する書類（推奨基準、登録申請書）を更新した。
- ③既存部品分類「雨水利用システム」、「給湯・給湯暖房機器（エコキュート、ハイブリッド給湯機）」についても「XI レジリエンスの向上」に該当する部品として検討を始め、次年度も引き続き検討をしていくこととした。
- ④「XI レジリエンスの向上」に該当する部品として、新規部品分類「配線器具」を追加して検討を始め、次年度も引き続き検討をしていくこととした。
- ⑤既存部品分類について 11 製品を追加し公開した。（令和 6 年 3 月末）
- ⑥既存推奨部品の登録更新作業を実施した。（令和 6 年 2 月実施）
  - ・既存部品分類中、断熱材：1 製品、開口部材（窓）：1 製品、暖冷房機器：1 製品、給湯・給湯暖房機器：6 製品、家庭用ガスコージェネレーションシステム：1 製品、デッキ材・床材：1 製品の計 11 製品を追加した。

### 【総括】

- ・「XI レジリエンスの向上」に該当する部品分類について検討し、新たに「太陽熱利用システム」、「太陽光発電システム」、「家庭用ガスコージェネレーションシステム」を対象とし、推奨基準等を追加した。
- ・これにより、推奨部品データベースの充実化を進めるとともに、推奨部品に「レジリエンスの向上」という新たな特徴を広げることができた。
- ・推奨部品の新規登録及び登録更新により、掲載製品数は 28 分類 141 製品<sup>※1</sup>となった。（令和 6 年 3 月末）

※1：重複登録は、「内装仕上げ材（壁材・天井材）」と「内装仕上げ材（調湿・脱臭建材）」：1 件。

### 3. 広報部会活動報告

#### (1) 環境と共生する家づくりに関する情報発信《新規・継続》

エンドユーザーに向けて、環境共生住宅の良さやそこでの暮らし方についての情報発信を引き続き実施した。小学生が授業で「環境と共生する暮らし方」について学ぶ際に役立つコンテンツの企画・検討を行った。

#### 【実施内容】

- ①居住者インタビュー（くらしかた・すまいかた）の実施
  - ・鈴森 village/埼玉県和光市、環境共生型集合住宅(1月17日実施)
- ②小学生向け「環境と共生する暮らし方教室」の企画・検討
  - ・環境と共生する暮らし方教室用パワーポイントの作成  
テーマ：冬をあたたく過ごす、対象：大人向け及び小学校高学年向け
  - ・副教材「環境共生住宅とSDGs」の教員向け解説書及びワークシート（Word版）を作成、公開。
  - ・既存コンテンツを活かした環境と共生する暮らし方教室の実施に向けて、実際の現場の受け止めや意見等を聞く機会を設けた。

大人向け「環境と共生する暮らし方教室（暖かく過ごす冬の工夫）」		
実施日	11月21日（火）	2月22日（木）
場所	川崎市池田町会館	広野町保健センター
参加者数	40名	20名
概要	川崎市教育委員会の寺子屋事業（小学生向け放課後事業）での実施を打診したところ、プレ授業として高齢者向けの講習会を行うことになった。 テーマは「暖かく過ごす冬の工夫」として、小学生向けに作成中のパワーポイント教材を大人向けに修正して対応。 開催後に受講者アンケートを実施。	広野町教育委員会にヒアリングした際に、川崎市での高齢者向け教室について紹介したところ、是非にということで開催が決定した。受講者は広野町保健員で、高齢者の健康管理についてアドバイスを行う。 テーマとパワーポイント教材は川崎市で使用した内容をよりわかりやすいよう改編。 開催後に受講者アンケートを実施。
教育機関へのヒアリング		
実施日	12月1日（金）	
ヒアリング先	加賀 博行氏/広野町教育委員会 教育次長兼学校教育課長兼生涯学習課長兼公民館長	
概要	広報部会にて作成中の教育者向け「副教材環境共生住宅とSDGs」の解説書案を始め、環境と共生する暮らし方教室の企画書についてご意見をいただいた。	

#### 【総括】

- ・「環境と共生する暮らし方」を子どもたちに伝えるための教材づくりを行うことで、大人向けの教室の実施に対する要望についても柔軟に対応することができた。
- ・作成中だった副教材「環境共生住宅とSDGs」の解説書案を始め、環境と共生する暮らし方教室の企画書等に対し、第三者からの意見を聞く機会を設けたこと

で、kkj サイトから教育者個人に向けて情報を発信する有効性について知ることができた。

## (2) 会員サービスの充実（環境共生に関する最新情報の発信）《継続》

見学会や交流セミナーの開催、機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」の発行、会員専用情報の充実化を図り、より魅力的な会員サービスを提供できるような広報活動を行った。

### (2)-1 見学会の開催

第1回では、「からまりしろ」（「絡まる」と「しろ」（＝余地）とからなる造語）の概念に基づき、周辺の自然や生き物等と連鎖し絡まりあいながら存在する秩序としての複合公共施設に関する見学会を実施した。

第2回では、秩父に建つ高断熱住宅（等級6・7相当）の構造見学（1棟）及び完成物件見学（2棟）により、寒い時期に寒い地域に建つ住宅の断熱性能を体感する見学会を実施した。

#### 【実施内容】

##### ①第1回（8月22日実施済）

- ・太田市美術館・図書館  
（建築家 平田晃久氏の設計、2022年度日本建築学会作品賞受賞の複合施設）
- ・参加者数 27名

##### ②第2回（12月6日実施済）

- ・秩父に建つ高断熱住宅（等級6・7相当）／構造見学及び完成物件見学  
（高橋建築（秩父）／「パッシブハウス」基準に基づく高断熱住宅）
- ・参加者数 18名

#### 【総括】

- ・第1回では、駅前の図書館・美術館という利便性の高い文化的な公共施設において、光や緑等の自然の要素と利用者が、建物を通して連鎖しあう設計を行ったことで、施設を利用する人たちの心を豊かにする空間形成の成功事例を体感することができた。
- ・第2回では、寒暖差が大きく冬期の朝の寒さが非常に厳しい秩父地域において、先進的な工務店が建設した超高断熱住宅を見学し、断熱性能の高さを実感することができた。

### (2)-2 交流セミナーの開催

第1回では、循環型社会形成の実現のため、運用時の環境負荷低減だけでなく、生産から廃棄に至るまでの環境影響を定量化し、負荷低減策を検討する手法であるライフサイクルアセスメントに関する最新情報についてのセミナーを開催した。

第2回では、住まいづくりに関する様々な技術革新や最近の省エネ脱炭素に関する動向を通じて、今後住まいの外皮の高性能化に求められる方向性について考える機会となるセミナーを開催した。

第3回では、近年都市部において激甚化・頻発化する水害に対し、水害リスクに応じた建築物の浸水対策や浸水対策と費用対効果など、最新データや事例、試算を含め有効な水害対策について学ぶ機会となるセミナーを開催した。

## 【実施概要】

### ①第1回（6月22日実施済）ZOOM開催

- ・テーマ：建築分野におけるライフサイクルアセスメント（LCA）による環境負荷削減
- ・講師：小林 謙介氏  
（広島県立大学 生物資源科学部 生命環境学科環境科学コース 准教授）
- ・参加者数 42名

### ②第2回（11月1日実施済）

- ・テーマ：脱炭素時代の住宅高断熱化と住まいの方向
- ・講師：鈴木 大隆氏（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事）
- ・参加者数 58名

### ③第3回（3月4日実施済）

- ・テーマ：水害リスクをふまえた住まいづくり・まちづくり
- ・講師：木内 望氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 住宅研究部 部長）
- ・参加者数 51名

※各回のセミナーの内容は、kkj ホームページの会員専用ページで公開

## 【総括】

- ・第1回では、今後さらに重要度が増すと考えられるライフサイクルの視点からの環境負荷低減に関する最新動向や取り組み状況等について、第2回では、新たに創設された断熱等性能等級6、7の住宅の今後の普及を見据え、その意義や様々な関連動向等について、第3回では、近年激甚化頻発化する水害に対する住まい、まちづくりとして求められる対策や費用対効果、誘導手法等について学ぶことができた。

### (2)-3 技術研修交流会（会員からの依頼により随時）

令和5年度は会員からの依頼がなかったため、開催しなかった。

### (2)-4 機関誌「SYMBIOTIC HOUSING」の発行

## 【実施内容】

○No. 55（7月3日発行済）

コンテンツ名	概要	タイトル
くらしかた すまいかた	Vol. 32	経堂の杜
研究・専門	令和4年度第1回 セミナーレポート を元に構成	2050年脱炭素社会実現のためのZEB・ZEHの重要性 田辺 新一氏（早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授・工学博士）
見学会報告 レポート	令和4年度第1回	大和ハウスグループ みらい価値共創センター （コトクリエ）
	令和4年度第1回 オプション見学	吉野林業体感と吉野かわかみ社中の取組み
	令和4年度第2回	大阪ガス実験集合住宅 NEXT21
交流セミナー 報告レポート	令和4年度第3回	自然とつながる「デライトフル（歓びのある）」な建築 ～パッシブデザイン手法を取り入れた先進的 オフィスビルの設計事例を通じて～
		川島 範久氏（川島範久建築設計事務所 主宰）

### 【総括】

- ・見学会や交流セミナーの内容を機関誌 SYMBIOTIC HOUSING としてまとめて発行することで、当日、参加できなかった会員にも実施内容を届けることができた。

### (2)-5 kkj の活動情報発信（部会情報及び活動レポート等）

#### 【実施内容】

- ・kkj 会員を対象とし、交流セミナーの講演記録動画を会員専用ページで配信した。  
[https://www.kkj.or.jp/contents/watch\\_seminar/report.html](https://www.kkj.or.jp/contents/watch_seminar/report.html)

### 【総括】

- ・交流セミナーの講演内容を録画し、その映像を会員専用ページで閲覧できるようにする等、会員サービスの充実化に努めた。

### (3) 会員拡大や協議会の認知度向上等に向けた広報活動《新規・継続》

kkj サイトを中心に、協議会の活動や環境共生に関する最新情報を積極的に発信した。またサイトのアクセス解析結果を活かし、kkj サイトの改編を行い、より効果的な広報・普及活動を進めた。

#### 【実施内容】

##### ①kkj サイト解析結果を活かした広報・普及活動の展開

- ・令和4度中の解析結果では、特に「防災」「台風」といった情報に関する需要が高い事を知ることができたため、「環境共生住宅と水害」をテーマとした記事ページの企画・制作を進めた。

##### ②地域からの便り

- ・『沖縄からの便り vol. 14』（9月公開済）

##### ③kkj ホットニュースを活用した情報発信

- ・全体6件：正会員1件、情報会員3件、地域会員0件、事務局2件

##### ④kkj サイトによる各種情報発信及びその管理

- ・随時更新

### 【総括】

- ・住まい手に向けた「環境共生住宅と水害」ページを作成、公開したことで、家づくりや住まい方からできる水害対策に関する情報をまとめることができた。
- ・環境共生住宅推奨部品に水害対策関連製品の追加を検討する意見が出る等、協議会活動の活性化に寄与することができた。

## 4. 普及展開小委員会活動報告

### (1) 環境共生住宅 普及展開方策の検討《新規・継続》

脱炭素型社会やSDGsに賛同する組織として、社会的要請やニーズに対応すべく体制や活動内容等の更なる充実を図るとともに、kkj活動の成果物（出版物やツール等）を積極的に公開し、環境共生住宅やパッシブデザインの普及に資する活動を展開し、会員の拡大を図る活動を実施した。また、団体名称変更に関する検討を行い、変更案を提案した。

#### 【実施内容】

##### ①「戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A」の公開

- ・4/28（金）太陽光発電システムを設置する住宅側の留意事項を解説した「戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A」を公開。

リリースを公表し、国土交通記者会と国土交通省建設専門誌記者会へ投込み。

併せて、関連する民間団体（14団体）へもニュースリリースと案内を投稿。

※6/13（火）国土交通省がプレスリリース発表

※社会資本整備審議会 建築環境部会 資料『「建築物再生可能エネルギー利用促進区域制度」 促進計画の作成 ガイドライン第1版』に掲載（P35、P54、P63）。

- ・7/13（木）一般社団法人 太陽光発電協会（JPEA）にて「Q&A」概要説明会を実施（「Q&A」のダウンロードサイトへのアクセス数は、発表後令和6/4/19現在で8,427件）。

- ・国交省の依頼により、太陽光発電システムの投資回収期間の再試算を実施し、補足資料としてkkjサイトに掲載。

- ・国交省より、参考情報として、総務省の「無線通信への影響を低減させるための具体的な方法」へのリンクの追加依頼あり。上記と同時に掲載。

##### ②ESHパッシブデザインツールのメンテナンス

- ・昨年度実施したEnergyPlus 9.5.0へのバージョンアップに対応した「ESHパッシブデザインツール ver1.3.0」を公開。

- ・令和4年度の成果である「EnergyPlusにおけるバージョンの違いによる計算結果の差について」をテーマとする論文を作成し、日本建築学会大会に投稿。

- ・以下のツールメンテナンスを実施。

○休日スケジュール対応（平日のみ、平日・休日、休日のみの3パターン対応が可能）

○自然室温と暖冷房ありの並列処理による計算の高速化。

- ・上記のバージョンアップをkkjサイトにUP。

##### ③環境と共生する暮らし方教室の企画・実施

- ・広報部会において検討・作成の小学校高学年生を対象とした「環境共生住宅とSDGs」 「涼しく過ごす夏の工夫」「暖かく過ごす冬の工夫」のツールを用いた授業を企画・実施。（授業の具体的な内容等については、広報部会で検討）

- ・神奈川県川崎市：川崎小学校に内容説明（10/18）。

川崎市の大人向けにレクチャー実施（11/21）。

- ・福島県広野町：教育委員会と授業について打合せ（12/1）。  
大人向けセミナーを実施（2/22）。

#### ④脱炭素社会推進会議での部会活動報告

- ・推進部会：環境共生を主意として設計され、居住後数年を経過した「まちづくり・団地」について、状況の調査・分析を行う。
- ・調査研究部会：品確法断熱等性能等級の上位等級に対応する「お勧め建材ガイド」「お勧め設備ガイド」作成及び推奨部品に「レジリエンス向上」を検討。
- ・広報部会：小学生を対象として「環境共生住宅」「SDGs」「カーボンニュートラル」について学ぶコンテンツの企画・検討。
- ・普及展開小委員会：主に小学生を対象として「環境共生住宅」「SDGs」「カーボンニュートラル」について学ぶ「(仮)環境共生住宅教室」の開催。

#### ⑤団体名の変更

- ・「環境共生住宅研究会」の設立から30年以上が経過し、「カーボンニュートラル」や「SDGs」等、住宅や環境を取り巻く多様化・深刻化する課題やニーズへの対応を図るため、これまで環境と共生する“住宅”の普及・拡大が主となっていたkkjの活動を、「住まい・まち・暮らしの環境共生」の普及拡大とし、これを再認識するとともに外部からも理解しやすくするため、当法人名称を変更し、必要な定款の改定を行うこととした。
- ・普及展開小委員会で検討（10/2、11/1、11/28、12/22、1/25開催）。

##### <主な方向性>

- ・設立当初の「住まい・まち・暮らしの環境共生」を継承していく団体であることから、慣れ親しんでいただいている「kkj」という略称は残す。
- ・基本的な「住まい・まち・暮らしの環境共生」の更なる普及拡大を図る。
- ・さらには、「住まい・まち・暮らしの環境共生」を取り巻く社会や環境の変化の課題に対応していく。
- ・産（企業）・官（国、自治体）・学（学識者、研究機関）の連携体制の強化も必要。
- ・3月に運営委員会での報告と承認。5月の理事会での報告と承認。事前に理事に説明。6月の総会にて承認。

##### <名称変更案>

- ・いくつかの案を検討したが、最終的に以下名称に変更することを提案とした。  
「環境共生まちづくり協会」：新しい「まち」をつくるだけでなく、空き家問題、少子化問題、防災対応等今日的課題も含んだ意味での「まちづくり」

#### 【総括】

- ・kkj活動を通じてとりまとめた成果の公開と、これらを活用した説明会や新たな活動（暮らし方教室）を実施し、工務店・設計事務所及びエンドユーザーに向けた情報発信を行うことができた。これからのkkj活動の見直しとこれに合わせた団体名称変更の検討を行うことにより時代のニーズや課題への対応を図った。

## 5. 事務局からの情報発信

### (1) 協議会活動に関するニュースリリースの発行《継続》

協議会活動や取り組み等について、住まいやまちづくりに関わる事業者、一般消費者等に広く認知してもらうため、協議会の活動成果に係るニュースリリースを発行し、積極的に報道機関等に対して情報発信を行った。

#### 【実施内容】

- ①太陽光発電システムを設置する住宅側の留意事項を解説した「戸建住宅の太陽光発電システム設置に関するQ&A」を公開（令和5年4月28日発表）
  - ・太陽光発電システムを設置する住宅を3つの設置ケースに分け、それぞれのケースにおいて住宅側で検討すべき留意事項をQ&A形式で解説
  - ・エンドユーザー向けとして、太陽光発電システムの基礎知識についても紹介
- ②脱炭素社会を目指す住まいづくりのためのお勧め建材ガイド・設備ガイド（6地域編）をセットで公開（令和5年12月25日発表）
  - ・2025年に予定される住宅の省エネ基準への適合義務化、近い将来のZEHの標準化を見据え、省エネ基準、ZEH基準、さらにワンランク上の省エネ性能を実現する仕様と具体的な環境共生住宅推奨部品の組合せを提案
  - ・『建材ガイド』では、3段階の断熱等性能を満たす断熱材・開口部材等の組合せ、『設備ガイド』では6地域で代表的に用いられる省エネ性能の高い設備機器の組合せと一次エネルギー消費量の目安を紹介
- ③脱炭素社会を目指す住まいづくりのためのお勧め建材ガイド・設備ガイド（7地域編）をセットで公開（令和5年12月25日発表）
  - ・2025年に予定される住宅の省エネ基準への適合義務化、近い将来のZEHの標準化を見据え、省エネ基準、ZEH基準、さらにワンランク上の省エネ性能を実現する仕様と具体的な環境共生住宅推奨部品の組合せを提案
  - ・『建材ガイド』では、3段階の断熱等性能を満たす断熱材・開口部材等の組合せ、『設備ガイド』では7地域で代表的に用いられる省エネ性能の高い設備機器の組合せと一次エネルギー消費量の目安を紹介
- ④脱炭素社会を目指す住まいづくりのためのお勧め建材ガイド・設備ガイド（5地域編）をセットで公開（令和6年3月29日発表）
  - ・2025年に予定される住宅の省エネ基準への適合義務化、近い将来のZEHの標準化を見据え、省エネ基準、ZEH基準、さらにワンランク上の省エネ性能を実現する仕様と具体的な環境共生住宅推奨部品の組合せを提案
  - ・『建材ガイド』では、3段階の断熱等性能を満たす断熱材・開口部材等の組合せ、『設備ガイド』では5地域で代表的に用いられる省エネ性能の高い設備機器の組合せと一次エネルギー消費量の目安を紹介
- ⑤「省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅を住みこなす住まい方ガイド」を公開～高機能な住宅の性能を発揮させる25のポイントを解説～（令和6年3月28日発表）
  - ・省エネ性に優れた断熱性の高い住宅を住みこなし、住宅が有する高い性能を発揮させるための適切な住まい方のポイントを簡潔に解説

- ・より一層の省エネを図るとともに快適性や健康にも寄与するもう一工夫についても紹介

## (2) 会員メールマガジンによる情報提供《継続》

会員に関連のある国土交通省等の行政や住宅関連団体に係る最新情報を収集し、これらの情報を会員メールマガジンにて配信・提供した（令和5年4月～令和6年3月 延べ92回配信）。

## (3) ホットニュースによる会員情報提供《継続》

kkj 会員に限り、各々が実施するイベントやセミナー等の情報を kkj ホームページに掲載することができ、会員ホームページとリンクすることで会員情報の提供を広く発信した（令和5年4月～令和6年3月 延べ6回）。

## 6. 国庫補助事業

### (1) サステナブル建築物等先導事業（省 CO<sub>2</sub> 先導型）に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

【業務実績】（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

- ・ 建築部門・住宅部門 29 事業者
- ・ LCCM低層共同住宅部門 1 事業者

### (2) サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）に係る評価・審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の評価・審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る評価・審査業務を実施した。

【業務実績】（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

- ・ 評価業務（採択） 7 事業者
- ・ 評価業務（事例集）：事例集デジタルブック及び事例一覧（平成 28 年～令和 5 年度採択）の公開（令和 6 年 3 月 21 日、27 日）
- ・ 審査業務 3 事業者

### (3) 既存建築物省エネ化推進事業に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

【業務実績】（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

- ・ 省エネ改修工事 68 事業者
- ・ 省エネ診断・表示 25 事業者

### (4) 省エネ街区形成事業に係る審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の審査業務を行う事業者として特定され、補助金交付に係る審査業務を実施した。

【業務実績】（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

- ・ 審査業務 2 事業者

### (5) 地域型住宅グリーン化事業・高度省エネ型事業に係る評価及び審査業務の実施

（国土交通省補助事業）《継続》

国土交通省における標記事業の評価・実施を行う事業者として特定され、補助金交付に係る評価・審査業務を実施した。

【業務実績】（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）

- ・ 評価業務（グループ採択） 616 グループ、 9,726 事業者

- ・評価業務（ZEH のエネルギー使用量データ回収、分析等） 1,524 棟
- ・審査業務（ZEH、認定低炭素） 2,719 棟

## (6) 環境・ストック活用推進事業（うち調査、普及・広報に関する事業）の実施

（国土交通省補助事業）《新規》

国土交通省における標記事業として企画提案が採択されたことを受けて、協議会内に学識経験者を含めた「委員会」を設置し、その下部組織として「作業部会」を設置し、以下事業の検討、情報発信等を行った。

### 【事業名称】

省エネ性能の高い住宅を使いこなす住まい方の周知・普及に関する情報提供事業

### 【実施内容】

#### 1) 省エネ性能の高い住宅を使いこなす「住まい方ガイド」を策定するための事前調査・検討

##### ①省エネ性能の高い住宅の想定（定義）

- ・等級 6、7 の住宅については、普及途上であることから、断熱性能に相応しい住まい方や採用されている建材や設備の使い方等についての情報が十分では無いために、かえってエネルギー消費量の増大を招く例も見受けられている。
- ・上記を鑑み、省エネ性能の高い住宅を使いこなす「住まい方ガイド」策定の検討に当たっては、主に断熱性能等級 6 及び 7 の住宅を対象とした。

##### ②断熱性の高い住宅を計画・設計・建設している工務店・設計事務所等へのヒアリング調査

- ・省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅を提供している住宅メーカー、設計事務所、国や団体が行う先導事業等の採択を受けている工務店、断熱性向上のための建材を供給している建材メーカー等、計 8 社へのヒアリングを実施し、断熱性の高い住宅ならではの住まい方に関する課題・問題点を抽出し、整理した。

##### ③既往文献調査

- ・断熱性の高い住宅における住まい方によるエネルギー消費量への影響等に関して、過去 5 年間の論文等（日本建築学会、日本エネルギー学会）を調査した。

#### 2) 事前調査・検討に基づく「住まい方ガイド」の方向性の検討

- ・ヒアリング調査及び既往文献調査を通じて得られた断熱性の高い住宅における住まい方のポイント等をふまえ、「住まい方ガイド」作成にあたり、考慮・記述すべき点を整理するために「住まい方ガイドコンテンツイメージ」の検討を行った。

#### 3) 省エネ性能の高い住宅を使いこなす「住まい方ガイド」の策定及びアウトプットの検討

##### ①省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅を住みこなす「住まい方ガイド」の概要

- ・省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅の特徴を踏まえたうえで、高機能な住宅の性能を十分発揮させる住まい方のポイントを「住まい方ガイド」として整理した。

##### ②省エネ性能に優れた断熱性の高い住宅を住みこなす住まい方ガイドの主な目次構成

- ・断熱性の高い住宅を住みこなし、快適でカーボンニュートラルな暮らしを実現するために

- ・ガイドの構成
- ・視点1：熱が逃げない断熱性が高い住宅は季節に応じた日射しのコントロールが大切
- ・視点2：暖冷房機器を適切に運転することで少ない暖冷房エネルギーでも快適に
- ・視点3：断熱性が高い住宅では空間をつなげて気持ち良い空気を家中に
- ・視点4：災害時でも日常生活を維持するために高性能な機能をもしもの備えに
- ・断熱性が高い住宅を住みこなすもうひとつ工夫

**【業務実績】** kkj ウェブサイトでの成果物の公開

- ・令和5年度国土交通省補助事業「省エネ性能の高い住宅を使いこなす住まい方の周知・普及に関する情報提供事業」報告書(概要版)を公開（令和6年3月28日）
- ・プレスリリース：「省エネ性能に優れた断熱性が高い住宅を住みこなす住まい方ガイド」を公開（令和6年3月28日）